

## 第 4 回から第 7 回検討会の論点整理

### 第 4 回「防災ボランティア活動検討会」論点整理

#### 【人材育成】

- ボランティアを養成する標準的なプログラムの必要性
- コミュニケーション能力向上の必要性（ニーズ調査の際には、特にコミュニケーション能力が必要）
- 過去の災害体験のみにとらわれないことの重要性を理解した人材育成の必要性（災害への対応は、その種類や地域によって千差万別であるため）
- 「コーディネーター」などの資格の弊害（人材育成を誤るとかえって被災地に迷惑をかけてしまう懸念）
- 人材を地域から発掘する等、育成以外のリクルート手段
- 被災地外のボランティア送り出し側と被災地の受け入れ役（キーパーソン）との間で、調整を橋渡しする役割の必要性
- ボランティア団体のネットワークの事務局を担う人材にはバランス感覚が必要であり、このような人材育成のあり方

#### 【平時の活動】

- 活動を担保する手段として、災害後の救援活動と同時に平常時の活動を盛り込んだ条例の必要性
- 各地で参考になり得る事例の共有の必要性
- 特定の組織や団体が事務局を担う、平時の活動の場のあり方
- 防災をテーマにいろいろな主体が集まる場の構築、維持の必要性
- 被災地支援に関わる NPO は体力やマンパワーが不足している場合が多いため、これらを補う工夫の必要性
- 自主防災組織との融合を図り、NPO がノウハウを提供することの有効性
- 地域で主体となる団体と行政間の日頃からの関係構築の重要性
- 条例と協定についての実例検証と整理の必要性
- 標準的なプログラム・テキストの扱い方、理解の方策
- 現場の声を把握することの重要性（援助を受け入れる側の視点で考えることの重要性）
- 災害現場での体験、学びの共有（ML の活用方法等）
- 顔の見える関係（ボランティア団体間のネットワーク）を平時に構築し維持していくことの必要性

#### 【広域連携】

- 具体的な支援の仕組みの検討
- 東海地震など県域を越える広域での被害が想定される大規模災害時のボランティア活動に関する検討（継続的な検討の必要性）
- 連携しない自由、連携しない人たちを尊重することについての重要性
- 被災地内外のボランティアに関係する組織同士の連携による災害ボランティアセンターの運営（災害ボランティアセンター運営の際の一定の指針の必要性）

## 第5回「防災ボランティア活動検討会」論点整理

### 【要援護者】

- 障害の当事者との連携（知的障害、精神障害者等との関わり方）

### 【他者との関係】

- 災害ボランティアセンターの運営の担い手としての社会福祉協議会の限界（少人数の職員、通常業務とのバランス）
- 関係団体等におけるボランティア活動に対する理解の重要性（地方公共団体、関係団体等が被災者支援を行うのでボランティアは必要ではないという事態の回避）
- 社会福祉協議会、市民活動支援センターなどボランティア活動や市民活動の中間支援組織同士による連携のあり方（社協とNPOの被災時・平常時の協働）
- 企業とボランティアとの連携（災害時のボランティア活動における協働・連携の必要性への理解）
- 被災地域におけるコミュニティでのボランティア活動に対する理解、信頼関係づくりの重要性（自治会や町会との連携、地域特性の理解、地元尊重）
- 地方公共団体など、多様な主体との協働の重要性

### 【保険】

- 災害時のボランティア活動におけるボランティア保険代の負担に関する整理の必要性

### 【安全衛生】

- 安全衛生の確保の観点から災害ボランティアセンターが枠組みを定めることの重要性、及びこれに対する必要性
- 寒冷地の防災ボランティア対策に関する地域ごとの検討（地域ごとの研究会など）
- 被災者の安心安全を考えることの重要性（ボランティア活動の安念性を高めることにもつながる）

### 【広域連携】

- 広域の全体にこだわりすぎない、もっと部分に集中した課題の検証

### 【情報発信】

- 検討会の検討結果を減災につなげるための効果的な情報発信
- 災害時に有効な情報を共有することに関するルール化（検討会メーリングリスト等の活用）
- ボランティアの経験や知見の共有化（検討会の成果の情報発信等）

### 【お金】

- 行政との連携による資金調達などの環境整備、災害ボランティア活動の活用できる資金制度のあり方（行政にたよらない資金の確保の手段）

## 第6回「防災ボランティア活動検討会」論点整理

### 【防災ボランティアの安全衛生について】

- 部会の位置付けを、検討会参加者を中心として、検討会以外のメンバーも加える自主的な研究グループと整理
- ボランティアリーダー向けの安全衛生マニュアルづくり（活動現場でのボランティアリーダーが果たす役割、活動現場での作業に潜む危険性を把握）
- 寒冷環境下におけるボランティア活動時の安全衛生に関するマニュアルの必要性（様々な現場の実情にあわせたボランティア活動の安全衛生）

### 【県境を越える規模の大災害におけるボランティアの広域連携】

- 広域災害時におけるボランティア活動について求められる機能、レベル（現場・市町村・都道府県・圏域・全国等）別のイメージの共有
- 「広域ボランティアセンター」求められる機能・イメージの共有
- 災害時のボランティアによる被災地及びボランティア活動関係者に対する情報支援、及びホームページ運営のあり方
- 災害ボランティア活動の関係者の情報共有と連携の重要性
- 情報ボランティア、情報ボランティアのコーディネーターの育成
- 広域連携部会と静岡の図上訓練との関係についての整理

### 【防災ボランティア活動の反省・教訓と活動への反映】

- 検討会メンバーがお互いのことを知る、まずはゆっくりと人の話を聞くことの重要性
- 話しやすい雰囲気や安心感を相手に与える等、経験や教訓の聞き出し方の技術以外の工夫
- 継続的に検討会メンバーの持っている経験を順次聞いていく場の必要性

### 【災害時要援護者対策と防災ボランティア活動】

- 災害時要援護者の定義の共有（移動が困難、情報の入手・発信ができない、引きこもり、意思疎通が困難等）
- 災害の種類、時間の経過によって求められる支援が変化することの共有
- ボランティアが加わることによって支援全体のパフォーマンスを上げることの重要性
- 災害時要援護者の支援・要援護者対策とボランティア活動の関わりの再確認が必要
- 災害時要援護者の支援に求められるボランティア活動の整理

## 第7回「防災ボランティア活動検討会」論点整理

### 【防災ボランティアの安全衛生について】

- 安全衛生の現場での適用事例収集、問題点の洗い出しの必要性
- 応急危険度判定「注意＝黄色紙の判定」の家屋での作業について、建築の専門家との連携
- 過去の災害における熱中症対策の事例、問題点の把握
- 災害によって重大な影響を及ぼす施設等での活動における安全性の確保
- 活動現場での危険な作業を把握し、共有することの重要性・把握した研修への反映
- 各災害ボランティアセンターに安全衛生のことが分かるアドバイザーを置くことの重要性

### 【県境を越える規模の大災害へのボランティアの広域連携】

- 大都市部での災害、県域を超える規模の災害への対応に関する検討
- 広域災害を想定した災害ボランティア活動の想定訓練等の課題共有
- 広域ボランティアセンターのあり方、求められる機能の整理
- 広域ボランティアセンターの運営に関する課題の認識と共有

### 【防災ボランティア活動の反省・教訓と活動への反映】

- 過去の災害から得られた様々な課題や取り組みの見直しなどの共有、活用方法（ボランティア活動が行われる現場の実態・情報の共有化）
- 被災地支援のスキーム、アプローチ方法の検討（被災地外からの支援のあり方（被災地の混乱を抑制するための情報収集、支援方策の判断等）
- 地域の特性への理解と地域住民の関わり（地理地形、方言、日常的な習慣、地元のルールなど）
- 被災地域の文化特徴に応じたボランティアニーズの拾い方（地域の代表者の判断・要望だけでは把握できない隠れたニーズ等）
- 情報・ヒント集の望ましい使われ方、読み手（対象者）の立場の再整理